

### はじめに

この単元は、平成24年度完全実施の学習指導要領に、(1) 世界の様々な地域 イ 世界各地の人々の生活と環境 として新しく示されたものである。新設理由として、学習指導要領には次の2点が挙げられている。

- ・人々の生活に関する学習を重視する観点
  - ・世界地理の学習への興味や関心を高める
- 移行措置として、すでに工夫を凝らし実践されている先生方も多いと思うが、知識・理解中心ではなく、世界地理学習への導入としての位置づけを忘れてはならない。

平成元年度版の学習指導要領を経験した先生なら、(1) 世界とその諸地域 ア 多様な世界 (イ) 人々の生活と環境 を思い出されるだろう。私自身、知識・理解にとらわれず楽しく授業できた記憶が忘れられない。

ただ、内容的には、衣・食・住という視点には変化がないものの、生活と宗教とのかかわりになどに着目させるように示されており、宗教という視点が加わっていることが異なっている。

## 2 新教科書の工夫と単元構成

- (1) 本単元における平成24年度用『社会科 中学生の地理』の工夫

### ①見開き1時間を基本とした工夫

各授業ごとの学習内容(ねらい)とそれに対応したふりかえり課題(チェック&トライ)が示されている。

#### チェック&トライ

☑ 暑い地域では、衣・食・住にどのような特色がみられるか、それぞれ本文から探してみましょう。

☑ 暑い地域の暮らしの学習をふりかえて、私たちの生活と比較して違いがある点と、似ている点を、それぞれあげてみましょう。

◆ ツバルの人々の生活を例に、暑い地域の島の生活にはどのような特色があるかをみていきましょう。

「社会科 中学生の地理」p.19 (左) p.20 (右)

また、同じ地域の過去と現在の生活を比較してその変化に着目し、人々の生活が可変的なものであることに気づかせるという学習を、興味深く、かつ授業展開を容易にするため、変化している現在の様子を3ページ目に配置し、伝統的な生活の学習をした後、3ページをめくると現在の学習ができるように構成されている。

### ②地理的技能定着への対応

1章「世界の姿」、2章「世界各地の人々の生活と環境」を中心に、地理学習において必要な地理的技能を身につけるための「技能をみがく」が大きく丁寧に扱われている。具体的な作業も教科書に書き込めるようになっており、授業内容ともリンクして、実際の授業場面で活用していける。



「社会科 中学生の地理」p.21

③「世界各地の人々の暮らし」における単元構成の工夫

日本では見られない地域として、暑い地域、寒い地域、乾燥した地域、高地の暮らしを取り上げ、日本との比較を通して、大まかに地球規模の人々の生活が学べるようになっている。また、その導入として各地の市場を取り上げ、生徒自らが地域によって人々の生活が違うことを見る視点として、衣・食・住に気づかせる工夫がされている。

そして、単元の後半に世界的視野で、住居・衣服・食文化・宗教について主題図を活用した学習を展開する構成となっている。これは、取り上げた事例を主題図上に位置づけ、様々な事例を比較するなどの作業的な活動が取り入れられることが望まれるとする、学習指導要領の趣旨に沿ったものである。

こうした工夫は、世代交代が大きく進み指導に不安を持つ若手教員にとって大きな力になることは間違いない。

(2) 単元構成

平成24年度用『社会科 中学生の地理』（以下、新教科書）を活用した単元構成は以下のようになる。

時	題材名	おもな学習活動
1	世界各地の市場をながめて	・写真資料の衣食住に着目し、違いをまとめる。
2	暑い地域のくらし	・ツバルの人々を例に、暑い地域の島の生活を考察する。
3	寒い地域のくらし	・シベリアの人々を例に、寒い地域の生活を考察する。
4	乾燥した地域のくらし	・アラビア半島の人々を例に、乾燥した地域の生活を考察する。
5	高地のくらし	・アンデス山脈の人々を例に、高地の生活を考察する。
6	世界の住居・衣服とその変化	・世界各地の住居や衣服の特色を気候や生活のしかたなどに着目して考察する。
7	世界の食文化とその変化	・世界各地の食文化を自然環境とそこで栽培されている農作物に着目して考察する。
8	宗教と生活とのかわり	・宗教と生活との関係、おもな宗教の分布を考察する。

3 具体的な学習活動  
～第2時 暑い地域のくらしを例に

資料は、新教科書と平成24年度用『中学校社会科地図』（以下、新地図帳）に加えて、帝国書院のHPに掲載されている写真資料を活用する。教科書や資料集の写真資料の場合、読み取るべき事柄がはじめから記述されていて使いにくい場合があるが、HP上の写真なら写真だけを提示することが可能である。国ごとに小解説つきで掲載されており、ツバルの写真は40枚も掲載されていて有効である。

また、言語活動の充実という視点から示されている、地図などの資料を「読み取る」、社会的事象の意味を「解釈する」、社会的事象の特色や関連を「説明する」、自分の考えを「論述する」を授業の中に計画的に組み込

むことが大切である。

(1) 1章の学習を活用する〔読み取り〕

地図帳を使いツバルを調べてみましょう。

①ツバルの位置を調べる

索引を使って生徒たちにツバルの位置を確認させる。見つけた生徒にはペンで印をつけるよう指示する。次に、ツバルを囲む緯線、経線を色ペンでなぞらせ、ツバルの大体の緯度、経度を読み取らせる。

私は、地図帳に学習の過程で様々な書き込みをさせる。そうすることで学習が容易になるだけでなく、地図帳への愛着がわくと考えるからである。3年間（歴史・公民でも持ってこさせている）使った生徒たちの地図帳は書き込みだらけになっている。



「中学校社会科地図」p.70（現行本p.59）

ツバルの周りにある島国の国名を挙げさせる。その国々が暑い島国であることは1章の学習から予測できるであろう。

今日は、ツバルの人々の生活を例に、暑い地域の島に住む人々の生活について学習します。

②ツバルの国土の様子を調べる

「ツバルはどのような形をしていますか？」

p.70の地図からは、ツバルの島の形がわからないところがおもしろい。生徒は様々な予想するだろうが、新地図帳p.66②に掲載されており、その縮尺から島の大きさを考えさせる。「中学校社会科地図」p.66②



1：400,000の地図なので、日本の拡大図（1：500,000）のページとずらして見比べれば、その小ささが実感できる。また、茶色に着色されていないことから、低地であること（平均海拔2mで、最高地点でも5mであり、地球温暖化による水没の危機にさらされている）に簡単にふれてもよいだろう。

ここで、HPに掲載されている空撮や地形、政府庁舎の写真を提示し、生活の様子を調べる学習への雰囲気高める。「フィジーからの飛行機の窓からツバルが見えてきました」のようなセリフを交えて楽しく生徒に示したいものである。



帝国書院HP 写真で見る世界のようす ツバル

(2) 衣食住に着目して〔解釈〕

ツバルの人々の生活の様子を衣食住に視点をあてて写真資料をみてみましょう。

写真資料を提示し、活用する場面としては、大きく2つが考えられる。

ア 教科書の写真を活用する場合

イ 写真のみを活用する場合

前者は、掲載されている解説を教師が上手く生かす工夫が必要である。後者は、プリントや視聴覚機器で、解説のない状態から視点を提示したり、情報を整理していくなどして読み取っていくこととなる。

①衣・食について（新教科書p.18を活用）



〔社会科 中学生の地理〕 p.18

「食」については、写真②の解説にある、ココヤシやパンの木の実がどれか予想し印をつけさせる。その料理が写真④のどれにあたるかを考えさせるとよいだろう。伝統料理であるフェイケ(タロイも・ココナツミルクを練ったものをやしの葉でくるんで蒸し焼きにしてつく)や魚介類、ココナツジュースに注目させ、木の葉でつくられたござを含め、その材料が身の回りでとれるものであることや、ココヤシの利用価値の高さに気づかせたい。

「衣」については、半袖で薄着であること以外に、裸足であることや年齢差による服装の違い、女性の頭髪に気づく生徒もいるだろう。

②住について (帝国書院HPを活用)

「住」は、写真資料から情報を読み取りやすい。新教科書p.21を使ってしまうと読み取るべき内容が記述されてしまっているの、ここはHPからとった写真資料をプリントで配布し、班で、見てわかること(疑問)・予想(理由)に整理して発表させる学習を展開したい。伝統的な家の写真とともに、次の写真を提示する。



帝国書院HP 写真で見る世界のようす ツバル

- ・家全体 簡単なつくり → 年中温暖  
身近な材料
- ・屋根 木の葉、トタン → スコール
- ・床 高い → 多湿
- ・窓 ない、広い → 高温、多湿

(3) 生活の変化〔説明〕

新教科書p.20の写真と本文を活用し、ツバルにも世界化の波が押し寄せてきていることを理解させる。最後に、暑い地域の島々での生活を衣食住について概念化する。

4 おわりに

「チェック&トライ」のトライとして示された、自分たちの生活と似ている点と異なっている点を、衣食住の観点で表にしたワークシートを課題とし、次時の学習へつなげていく。どの写真資料を、どういう順に、どう学習活動とつなげていくかが教師の腕の見せどころである。世界地理の導入として、教師にも生徒にも楽しい授業が展開されることを願ってやまない。